第二回臨時議会を招集
五議案を審議

五十三年の市議会第二回臨時会が、四月十日招集され、五件の議案を審議し、それぞれ議決や承認を行いました。

税条例などを改正

税負担の適正化、地方税源の充実強化を図るため、地方税法の改正が行われました。

このため、市も税条例等の一部改正等を行ったものです

◎豊栄市税条例の一部改正

○法人住民税均等割の税率が次のように改められました。

資本の金額又は出資金額が一億円を超える法人で従業者が百人を超えるものについては、年額八万円であったのが三段階に区分され、五十億円を超える法人で従業者が百人を超えるもの年額八十万円。

十億円を超え五十億円以下の法人で従業者数百人を超えるもの年額四十万円。

十億円を超え従業者数百人以下のものと一億円を超え十億円以下で従業者数百人を超えるものについては、それぞれ年額八万円。それ以下のものは従来どおりです。

○資本の金額又は出資金額が一億円を超える法人で従業者数百人を超えるものについては、年額八万円であったのが三段階に区分され、五十億円を超える法人で従業者が百人を超えるもの年額八十万円。

十億円を超え五十億円以下の法人で従業者数百人を超えるもの年額四十万円。

十億円を超え従業者数百人以下のものと一億円を超え十億円以下で従業者数百人を超えるものについては、それぞれ年額八万円。それ以下のものは従来どおりです。

○特別土地保有税に非課税項目が規定されました。

◎都市計画税条例の一部改正

地方税法の改正により、都市計画税の制限税率が一〇〇分の〇・二から一〇〇分の〇・三に引き上げられました。

豊栄市も、都市計画事業に多額の一般財源を投じているので、税率を一〇〇分の〇・三に改めました。

五十二年度予算
専決処分を承認

市長は、市議会を招集する余裕がなかったので、三月三十日に五十二年度一般会計補正予算を専決処分しましたが、これを議会に提出して承認を得ました。

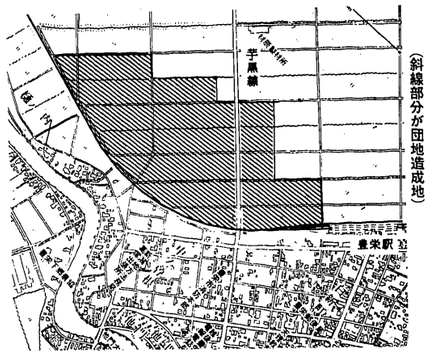
一般会計予算は、九回の補正で総額四十七億二千八百十三万八千円になりました。

市道路線の認定

競馬場・引越線（笹山地内一、四二一五㍍）を市道として認定しました。

駅裏団地の造成始まる

完成予定は56年



豊栄駅裏の鉄道沿い市道葛塚・競馬場線付近に、大規模な埋め立て工事が、始まりました。これは、新潟県住宅供給公社の住宅団地造成事業です。

造成事業の完了は、昭和五十六年の予定で、面積など、団地の概要は、次のとおりです。

○面積　二四三、九一三㎡
○区画数　六九〇区画
○計画人口　約一、八〇〇人

公園は、二か所に造成されます。総面積は八千平方㍍ほどですが、その一つは、約六千平方㍍の大きなものです。また、集会所建設用地も二か所に確保され、そのほか、保育園用地やマーケット用地、病院用地なども確保されています。

家庭の汚水などは、早通団地と同じように地域汚水処理場で処理されます。

総事業費は、三十五億円ほどが、見込まれています。

芋黒線を拡幅

普通には芋黒線と呼ばれている市道葛塚・競馬場線を、幅十六㍍に拡幅することになりました。現在の幅は、六・五㍍ほどです。

この市道は、延長三・五㌔㍍ほどで、競馬開催時には、遠く福島県方面からなどのファンの通路となり、自動車が列をなすので、この緩和策として拡幅するものです。

総事業費は三億円程度ですが、この八〇㌫程度は、競馬会からの寄付で賄われます。

国道付近での拡幅工事は、この冬に行われましたが、全線拡幅には、さらに四年ほどが見込まれています。

なお、新々バイパスの開通によって、この道路は、ますます重要になるので、事業の完成が待たれます。

元副議長の首藤さん死去

元市議会副議長の首藤喜蔵さん（平林・七十一歳）が、三月二十一日に亡くなられました。

首藤さんは、昭和三十年八月から連続して四期十六年間、町と市の議会議員の職にあり、副議長を四年間務められました。

首藤さんは、このような功績で、昭和四十七年に市の功労者として表彰を受けました。

なお、これらの功績により四月十八日付で勲六等単光旭日章がおくられました。

工業統計調査の結果
出荷額増ほ物価の影響

昨年の暮れに実施した五十二年の工業統計調査の概数がまとまりました。

調査の結果は、事業所数百五、従業者数一千四百四十四人、製造品出荷額等百二十三億七千四百二十一万円となりました。

前年に比べて、事業所数は二事業所が減少し、従業者数で三十一人の増加、製造品等出荷額は十六億一千九万円増加しました。

従業者数の規模別分類の結果は、従業者数三十人以上が十一事業所、二十九人以下が九十四事業所でした。

製造品出荷額等の内訳は、製造品出荷額百十七億六千九百五十一万円、加工賃収入額が六億三百三十万円、修理料収入額が百四十万円でした。

一事業所当たりの製造品出荷額等は、一億一千七百八十五万円で、前年に比べて一千七百二十六万円、一七・二㌫の増加になっています。また、従業者一人当たりの製造品出荷額等は、八百五十七万円で前年に比べて九十五万円、一二・五㌫の増加となっています。

製造品出荷額等は、前年に比べて一五㌫、十六億一千九万円の伸びを示し、前年の増加率を八・五㌫上回ったものの、原材料使用額等も一四・一㌫増加していることなどから、製造品出荷額等の増加は、物価高騰が大きく影響しているものと思われます。

脳血管疾患が最高
52年死因別統計

縄文遺跡として知られている鳥屋遺跡の発掘調査が、4月6日から8日まで行われました。

この調査で、信仰儀式用と思われる石器も発見され、関心が持たれています。

土地所有者の協力により、この秋には、さらに調査が行われる予定です。**写真は発掘調査現場**

昭和五十二年中の死因別統計がまとまりました。

昨年一年間に死亡した人は男百二十九人、女二百二十人、合計二百四十九人で、前年より二十六人少なくなっています。総人口が増えていることもあって、千人当りの死亡者数は六・一人と、昭和三十四年以来最低だった一昨年の記録六・三人をさらに下まわりました。

死因別死亡者数のおもなものは次のとおりです。

①	脳血管疾患	六十人
②	ガン	五十四人
③	心臓疾患	二十三人
④	老衰	十八人
⑤	肺炎	十三人

以下、自殺十二、気管支炎及び気管支ぜん息十、不慮の事故九と続いています。脳血管疾患、ガン、心臓疾患の上位三つを合計すると全体の五五・四パーセントとなり、半分以上を占めています。特にガンによる死亡者数の割合は年々増加する傾向にあります。

■ 脳血管疾患

相変わらず死亡者数が最も多く、六十人で、内訳は脳出血二十八人、脳梗塞十九人、脳血栓六人、脳動脈硬化症四人、くも膜下出血三人となっています。年齢別では六十歳以上の合計で六十人中五十四人を占めています。男女別では男二十五人、女三十五人と女性が上まわっています。

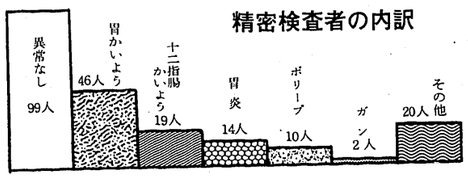
■ ガン

五十四人中三十人と、半分以上が胃ガンによる死亡です。次いで腸ガン六人、肺ガン四人、食道ガン三人、その他のガン十一人となっています。四十歳代の働き盛りから急に増えています。男女別では男三十二人、女二十二人で、脳血管疾患とは逆に男性が多く、胃部検診の受検者に男性が少ないことも関係があるようです。

五十二年度
胃部検診の結果

昭和五十二年度中に胃部検診を受けた人は男七百四十四人、女千八十四人の合計千八百二十八人でした。そのうち精密検診を要すると診断された人は二百十二人で、全体の一一・六パーセントとなっています。また、その内訳を男女別にみると、男百十五人、女九十七人で、受検者数の少ない男性の方が、要精密検者数では女性を上まわっています。

ガンは早期発見が第一です。胃の粘膜だけにとどまっている早期胃ガンは、手術により百パーセント助かります。医療費も、手術後薬物療法や放射線療法が必要な進行ガンに比べ、少なくてすみます。

集団検診では、一般の病院の十倍もの高い率で、早期胃ガンが発見されています。自覚症状が出てからでは手遅れです。定期的に集団検診を受けるようにしましょう。

精密検査者の内訳